THE YOMIURI SHIMBUN

讀賣新聞

2012年(平成24年)
3月25日日曜日

遺品に人生 思い重ね整理

天理・長澤さん 県内初の資格

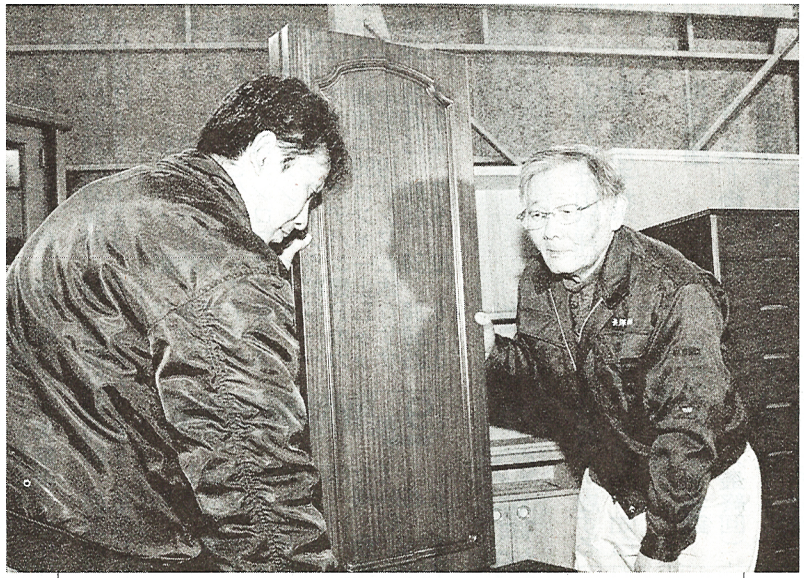
誰にも知られずに死んでいく「孤立死」が社会問題になる中、亡くなった人が暮らした場所を身内に代わって片付ける仕事の民間資格を、天理市の運送会社の社長長澤昭さん(67)が県内で初めて取得した。「遺品整理士」となった長澤さんは「困っている人が、安心して遺品整理を依頼するきっかけになれば」と話す。

(白石佳奈)

遺品整理は1990年代からリサイクル業者らが手がけていた。しかし、回収した遺品の不法投棄や法外な費用の請求などトラブルも起きたため、北海道の業者らが昨年9月、「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)を設立。廃棄物の処理に関する法知識や遺族との接し方などを身につけた人に資格を認定している。

長澤さんは約40年間、運送業を営んできたが、「形見分けで家具を運んでほしい」といった依頼が増えてきたため、2009年から遺品整理も担うように。昨年末、資格の存在を知って取得を思い立ち、約200件の依頼を受けた経験をふまえ、供養のあり方をテーマにした論文を同協会に提出。今年2月に合格した。

依頼は、高齢の夫婦二人暮らしで配偶者を亡くした夫や妻からが多いが、自ら命を絶った若い女性や、死後1週間たって見つかった一人暮らしの男性の部屋などもある。



遺品の家具を整理する長澤さん(右)(天理市で)

孤独死も笑顔の写真にほっと

昨秋、県内のアパートで亡くなった70歳代の一人暮らしの女性の部屋の整理を家主から頼まれた。家財道具から、女性が笑顔を見せる写真を見つけた。「楽しい時もあったんだな」。救われた気がした。

後片付けは2時間半で終わった。家主は「長い間、近くに住んでいたから情もわく」と、トラックが見えなくなるまで見送ってくれたという。長澤さんは「気にかけてくれる人がいて、本当によかった」と振り返る。

長澤さんは「遺品整理は、最後に故人を見送る仕事だと思う。亡くなった人に喜んでもらえるよう考えながら丁寧に整理していくことが、やがて、遺族の心の整理にもつながるのではないでしょうか」と話している。

問い合わせは長澤運送(0120・14・1178)。